



明治三十八年四月分

戦時日誌

軍艦三笠

機関部記事板

0268

四月一日土曜 兩曇 業東風力一乃至二 鎮海湾

午前八五〇 有明九ヨリ后山炭塔載ヲ始ム

午后〇四〇 右結了

夜間八直哨兵

本日より夏季日課施行(但し当地真附近ニ於テハ午前に就業

迄、時刻ヲ廿分突操下ケル)

石	分隊人員開始時刻	終了時刻	塔載時間	塔載量	一時間塔載量	一時間平均塔載量
炭	第二七八	午前八五〇	午前一二三	二八〇噸	一二六噸	
塔	第四六七	午後〇〇	午後〇五〇	二八〇噸	一二六噸	
載	第三七二	午前〇三六	午後〇四〇	二二六噸	一一五噸	
成	第五六三	午後〇四〇				
績						二四一噸

附 当日ハ和炭英炭ヲ別々ニ搭載シタルタメ「ホールド」ハ常ニ二約ニ

ヲ使用シタルバ一時間搭載大ニ減少セリ

噸

第一戰隊日令第七號

三十八年三月
於此地點三隻

東郷第一艦隊司令長官

一、本戰隊ノ區分及艦船番號ヲ左ノ通り改定ス

第一小隊

第二小隊

第三小隊

- (一) 三笠
- (二) 敷島
- (三) 富士
- (四) 朝日
- (五) 春日
- (六) 日進

(七) 龍田 (列外)

二、龍田ハ航行中特令ナケレバニ番艦ノ右側

對敵中ハ
非敵側

八百米突ニ占位スルモノトス

三、本戰隊カ驅逐隊 艦隊ヲ隨伴航行スルトキハ

特令アルノ外驅逐隊 艦隊ハ戰隊ノ右側

對敵中ハ
非敵側

八百米突ニ於テ其先頭ハ戰隊ノ殿後ト界ホ

並頭スル如ク占位スルモノトス

即チ左圖ノ如シ

									10	
									20	07 亀田
									30	
									40	
									50	
									60	軽 隊 隊 (艦 隊)

3

軽
隊
隊
(
艦
隊)

海
軍

0271

聯隊法令第一三號

通報艦

龍田

右第一戰隊通報艦ト是ム

通報艦

千早

右第二戰隊通報艦ト是ム

通報艦

八重山

右第五戰隊通報艦ト是ム

明治三十八年四月一日

聯合艦隊司令長官東郷平八郎

海

軍

0272

四月二日 日曜 曇雨 北東風力一乃至二 鎮海湾

午前七、四、五 大掃除日課手入

午後〇、二〇 彈藥糧食搭載

全 五、二〇 艦長總員訓示セシ 其要領如シ

夜間八直哨兵

匪采加丸練習ノ為メ臨時乗組中ノ少尉候補

生堀煥吉、玉木信助、後藤誠雄、山崎巖尾

吉田秋成帰艦

0273

四月二日 演習 總負 於后甲板 鎮海灣
 第一面内 艦隊 對抗 射擊 其成績 未ダ發表
 セラズト 幸に 其 最良 射撃 成績 未ダ發表
 彈數 百分比 並 航射 射撃 成績 未ダ發表
 射撃 成績 於テ 三十分 示シ 本艦 六隻 内 第四
 種々 状況 相違 固ヨリ 内 筒 砲 射撃 成績
 対抗 射撃 始テ 以來 未ダ 曾有 鬼ノ 角好
 成績 下 我 第一 戰隊 為 我 海軍 為 競 争
 念ヲ 外シ 我 第一 戰隊 為 我 海軍 為 競 争

喜比大、頼母ら感ズルモノ、す、而シテ本然、成績、
 是、比、良、好、ナラ、バ、聊、カ、遺、感、ト、セ、ル、モ、
 而、モ、敢、テ、射、手、ヲ、外、ヲ、ス、蓋、シ、平、素、ノ、射、撃、ヲ、
 各、分、存、長、以、下、飛、負、ノ、絶、テ、執、心、ヲ、見、ル、
 不、良、ヲ、成、績、ヲ、得、ル、其、著、任、以、来、執、心、
 以、テ、飛、科、ノ、専、心、ヲ、示、ス、對、シ、氣、ノ、毒、ノ、覺、
 行、動、ガ、成、績、ヲ、右、左、ノ、射、撃、ハ、彼、我、中、的、
 然、シ、唯、訓、練、ガ、成、績、ヲ、示、テ、良、好、ヲ、示、ス、
 真、正、ト、ハ、心、銘、執、セ、リ、而、シ、テ、訓、練、ノ、方、法、ハ、
 其、上、違、ニ、大、ニ、関、係、ヲ、有、ス、ル、モ、シ、バ、無、意、義、

訓練ハ之ヲ幾百回行フモ更ニ上達ノ見込ナシ
 故ニ射撃ノ種々ノ手段ヲ改良シ射撃ノ性能
 ヲ知悉シ其最良ノ方法ヲ捕ルヲ以テ要ス
 今ヤ副長以下各砲員ニ至テ是ヲ教テ成績
 良好ナラシメテ努力シテ大ニ喜ブベシ願
 夫不日施行セラル中彈射撃ニ終テハ先合願
 良成績ヲ収メ從來ノ三笠ノ名ヲ取ザセトテ

(二) 操練ノ施行上注意スル事
 由來戰時操練水雷艇防禦操練其他
 於テ往々砲門ヲ海水浸入ノ故ヲ以テ砲
 門ヲ請求シ来ルモノ屢々前中甲板上下砲
 門如キ路ニトテ常ニ乾カシ止ムヲ得テ所
 得テ所モナシ

(三) 然レモ往々シテ未ダ其必要ヲ認メテモ之レヲナシ魚
 為掃練時同ク経過セトモ疑ヒ認メラレテ如何
 掃練ノ時ト雖モ實際ノ場合多ク想到スル海水
 ノ浸入等又一種ノ掃練時之等ニ在リ申ナシ
 能ハズモ一七バ種ノ風波ノ時ニ試用研究シテ
 必要了勿論時ニ各々各自ノ新申由直
 新シキ要スル言フ候タストモ誠心多ク
 場合困難ニ充テテ餘ラズモ誠心ナキ人軍
 人非尤府内賜漢チ若シ本所アトモ人
 此輩ノ後司ノ足久
 驅逐艦、龍長擊、就テ
 驅逐艦、龍長擊、至難ノ業ニテ深キ研究ヲ
 要スルモ、向シテ又之ニ對スル防戦射撃モ容

0277

易ナラモナリ故ニ砲負ハ一意之ヲ防禦シ近接セシメ
 ザラシコトヲ攻完スベキナリ故ニ種ノ演習ニ於テハ其ノ衝
 突ヲ避ケル等ノ為メ止ラ得ズ点燈シテ龍衣撃
 セシメ又防禦ホシテ在僅カニ空砲ノ發火止ムル以テ
 兎角演習的觀念ノ弊臨リ易シト雖モ自己
 故ナク彈丸ガ敵ニ命中セバ敵ハ水雷ヲ發射
 シテ自體ガ沈没ヲ來カシキニ實際ノ場ノ人々相心
 傷セバ熱心其防衛法ト之ヲ撃沈セム(中略)準
 研究ノ必要アリト云々空砲ノ演習視シテ倦厭ヲ生ズ
 ルナドハ思ヒモヨラセ也
 (四)探照燈ハ龍衣撃馬逐能等、対し日而モ大カク
 コトハ多ク上ニモセ故、其ノ社名ハ務メ完全ナラザンベ
 カラス而シテ其ノ操縦ハ日而モ巧妙ナラセ(カラス)過日ノ

一番電燈ノ誤照ノ如キハ發見中實ニ一艦否全艦
 隊ノ運命ト度ス想フ之レ念頭敵ナキカ為メノ演
 習的觀念ヲ起シテ過失ニシテ操練ノ誠心ヲ要ス
 ル茲ニ
 一探照燈負ガ旋回ノ速度俯仰ノ角度等ノ就
 テ終始船ヲ格ヨリ注意ヲ受ルガ如キハ大遺憾ナ
 本職ガ常ノ喧シク之レ付テスハ予ガ水雷艇司令
 ノ頃充分ノ経験ヲ有ス又予ハ曾テ電田(電田ノ意)
 十七隻ノ水雷艇ヲ率ヒ龍巖擊演習ヲ行ヒ時
 敵驅逐艦ノ探照燈ノ光ヲ河ビ新紙ノ字ヲ解
 シ得テ余ガ傍方ニ在リ士官ハ既ニ發見セシメ
 ラ以テ速カク發砲セシメトテ請リ然レモ余ハ論シテ
 曰ク此巨砲未ダ三千以上ナラズ未ダ敵ハ決シテ我シヲ見付

丸ニアラス暫ク待ツル故探照燈ハ注意セヨト言来ダ
 終ラザルニ故探照燈ハ他家ノ他ノ船先セハ斯ノ如キ
 モノミシテ一タビ探照燈ハ照サレバ魚艇ノ人ハ多ク
 其ノ巨艦兩既ニ接近セシモト誤解シテ水雷艇ノ襲
 撃等々ノ終ラセ大ニ夫シガ為ノ夜射ヲ速カラスル
 コトアリ况ヤ砲火中ニ於テオヤ夫等ハ大ニ注意
 スキノ問題ナリ又實際探照燈負モ敵ヲ捜索スル
 品モ静カシ之レヲ旋回セザバ敵ヲ免ラズ下往スル
 探照燈ハ些細ナルトモ重ク注意シテ能ク之ヲ
 照シ其照輝ル時間ノ長キニ從ヒ敵ヲ若シムル
 コトナク大ナルコトヲ知ルベシ兎ニ角探照燈負ハ
 敵ヲ照スト照サント由ラ重大ナル結果ヲ惹起
 スルモノナルコトヲ記臆シ其ノ旋回係仲ノ如キ最

モ静カシテ 輕率ニ 働カシムベカラズ

(五)

錨、其事業、運用術中、品モ重要トモナリ
蓋シ、錨ハ其海軍、徽章トシテ用ヒスルガ如ク、
精神シテ又生人申テ其重量極メテ大ニバ一度、
船側、觸ルヒバ之ヲ破壊シ、錨鎖、切断スルハ海底
ニ沈没シテ復タ揚グベカラズ等、過失、結果、客
易カナラザルモノアリバテ故、錨具、必ビ其取、
總テ注意、注意ヲ加ヘ、取カモ欠ク、無カレコトヲ
要ス、其船、他船、比、揚、錨、迅速ナルヲ要ス
位置、了、蓋シ、本船、殆ド、常、船、係、先、登、タ、ト
共ニ、定、泊、中、潮流、風、波、際、給、炭、船、損、付、等、ノ
場合、対シ、安全、ノ、為、メ、錨、鎖、ヲ、出、ス、ト、平、常、ヨリ、モ

0281

長クシテバナリ故ニ余ハ出港前、膏ヲ縁メ鉛鎖編ノ
 方ヲナサシムルヲ例トス(點ハ平準中ニ其類ヲ)何トモハフケブス
 ノ捲廻輝キハ他ノ万事モ亦從テ輝シ縁ニ他船
 ヲモ輝ルニ至ラシムレバ自然隊形ヲ作ルノ輝連ニモ
 関スナリ故ニ諸事此心掛ヲ以テスルト共、平素
 揚錨機ノ保存手入ハ完人至ナラズベカラス又雷テアカー
 ダビットトフアプラーガイ切斷シタルコトアリ其ハアカーダビ
 ヲトシテ旋廻円滑ナラズルニ因ス即チコダビットト下部磨
 擦部ニ能ク敷脂ヲ塗リ旋廻ラシテ上部ニ円滑ナラ
 シメサルベカラス其他萬事平素、於テ縁ノ充分
 準備ヲナシ災昌、未ダ起ラズシテ防遏スル
 ノ心掛ヲ要ス又錨ノ事業ニ人選ヲナシ其ニ人
 ニテ為シ得ベキ事モ尚三人ニテ為サシムルガ如キ皆然

凡、海軍ノ事ハ徹頭徹尾注意ヲ以テ成ル、注意ハ
 吾人ノ最モ責テ所シテ、嘗テ寐間モ忘ルムカラズ
 余ガ以上ノ言フ所ヲ聴ク、咀嚼既味セヨ、必ズヤ一過ノ
 教訓ヲ認ムルヲ得テ、遂ニ過失ヲシテ、悔ヲ断クシムルヲ
 得キナリ

0283

四月三日 月曜 晴 北及北東風力一乃至二 鎮海湾

午前 九、三〇 總員分隊真換ノ位置ニ整列遙拜式施行

后街勅諭奉讀

午后 一、一五 内筒砲射撃

夜間八直哨兵

海軍

0284

四月四日 火曜 晴 区々風力一 鎮海湾

午前九、一五 砲一二番内筒砲射撃、残りストリーと 錨運

搬法実地練習、信号兵信号替古

午后一、〇〇 四等水兵クダチエニ運搬法及應急スリジゴ作り方

両舷直雑業、信号兵信号替古

全 一、三〇 各砲一二番内筒砲射撃

全 五、三〇 右全 他兩舷直朋朝山港ノ準備

夜間八直哨兵

0285

第一戰隊日令第八號

三十八年四月四日
於C地矣三隻

東郷第一艦隊司令長官

一 第一戰隊ハ明日午前八時十五分迄港約三日間ノ豫定ヲ以テ

艦隊運動ハ内筒砲對抗射撃ヲ施行ス

速力及舵角左ノ如シ

(原速)十節(微速)四節(舵角)十五度

二 内筒砲及抗射撃施行區域ハ新回ト令シ但シ朝日ト敷

島ト位置ヲ換ヘ三隻敷島及富士朝日組合セトス

又龍田ハ洛東澳ニ於テ單獨内筒砲射撃ヲ

施行ス

三 戰隊ハ毎夜加徳水道ニ假泊ス

四 各艦ハ当日迄三更ニ嚴密ニ船機検査ヲ施行シ置ク

(終)

四月五日 水曜 区々ノ風力一

加徳水道仮泊

正午

北緯 廿四度四十五分
東経 百八度五十八分

午前八、一〇 揚錨艦隊ノ番号順序ニ出港、航行序

列充ノ如シ

三空 敷島 富士 朝日 春日 日進

全 八、三六 防水扉閉鎖次ニ戦闘用意

全 九、三〇 艦隊運動開始

全 九、四五 戦闘準備

全 一〇、四四 戦闘操練

全 一一、二一 艦隊運動終ル

午後 一一、一〇 戦闘配置ニ就ク

全 一二、二七 敷島ト内筒砲並航射撃開始本艦先ツ射

撃入

海軍

0287

午後三、四九 右對抗並航射撃停止次ヲ漂泊

全 四、一〇 艦隊加徳水道ニ向テ

全 五、〇七 加徳水道ニ有投錨(單列ニテ)

艦位 小高嶋並西、水嶋並才西、緑島並東大並

水深九尋、底質泥

夜間八直哨兵

第三回並航射撃成績表 風力「艦速」六涅

艦名	射距離	命中弾数	射撃時間	百分比
三笠	3640 ⁰⁷	63	7390	45.40
敷島	3700 ⁰⁷	73	676	53.49

0288

聯合艦隊日令第一六號

三十八年四月五日
於C地矣三密 東郷聯合艦隊司令長官

一 未^レ十日(月曜日)よりC地矣ニ集合セル各戰隊ノ諸

艦別紙射撃計畫要領ニ準^レテ艦砲射撃ヲ施

行スヘシ

二 本射撃施行順序ハ戰隊各別ノ順序ニ依^リ各戰

隊ハ便宜ニ射撃艦ノ順序ヲ定ムヘシ

三 C地矣ニ泊在セザル麾下諸艦別紙計畫要旨

ニ準^テ其所在附近ニ於^テ適宜ノ方法ヲ定^テ射

撃ヲ施行スヘシ但^シ土地矣附近ニ在^ル艦艇ハ便宜

ニ地矣ニ來^リ射撃ヲ施行シ差支ナシ

四 特務艦驅逐艦水雷艦ニ可成別紙計畫要旨ニ

準^テ其適宜ノ標的及方法ヲ以^テ射撃ヲ施行スヘシ

五 本射撃終了後更ニ三十八年度煩瑣射撃用彈藥

(減裝藥)年額三分二乃至二分一ヲ以^テ射

撃ヲ施行セシムル 豫定ナリ其計畫要領ハ追テ令達ス

(終)

(別紙)

常装菓艦砲射撃計畫要領

一本射撃ハ一艦充教練射撃ノ要領ニ准シテ施行シ主

トシテ砲臺長及射手ヲシテ左項ニ就テ研究練習セ

シムルヲ目的トス

(一) 苗頭基準距離以外ノ射距離ニ於テハ苗頭量及距離

表射撃ニ於テ風力ニ対テ苗頭修正量ノ決定

(二) 遠距離ニ於テハ彈着ノ觀測

二本射撃ニ聯合艦隊日令第六號ニ於テ令達セル全彈教

使用ス

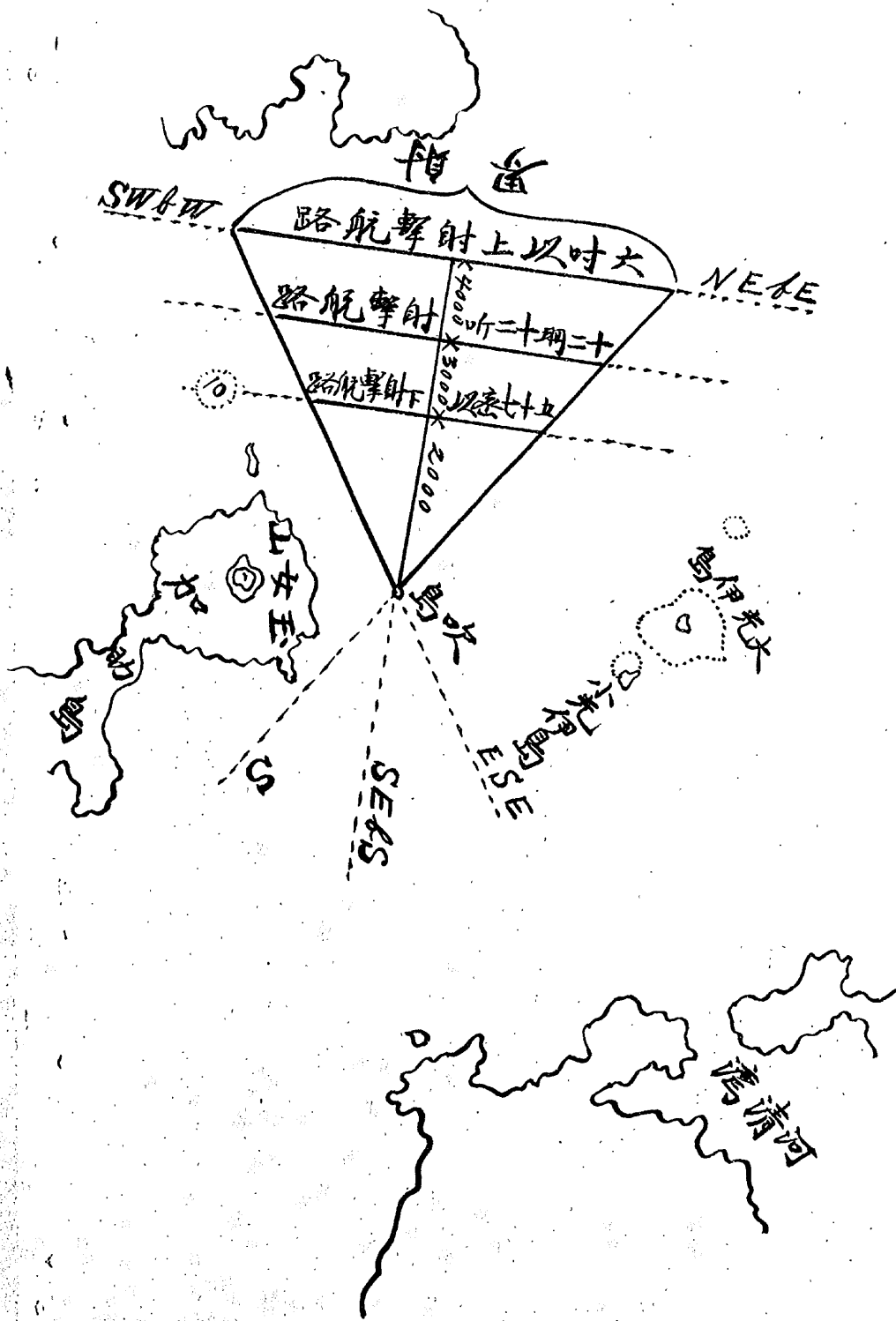
三射撃標的ノ(一)地矣外吹高射撃艦ノ速力ヲ十海里(特

務艦)驅逐艦(通宜)トシテ航路浮標ヲ設置セズ

四射撃艦ノ航路射距離及射界ヲ附圖ニ於テ定ム

五.前項各種射擊ハ各艦二通過以外規程ヲ遵テ發射
 シ終ルハキモトシ一日中ニ或艦射擊ヲ終ルハ勉ムコトス
 六.成績ハ命中彈(跳擊彈ヲ算入ス)ノミヲ以テ算定ス
 七.各隊係艦間ノ協議ヲ以テ當日射擊ヲ施行セザル艦ヲ將
 校一名下士卒若干ヲ加助島玉山ニ出シ監的ニ任セシメ
 係射擊艦下並的者ノ間射擊砲種ノ表示彈着ノ
 遠近等ニ關テ通信ヲセシム其方法ハ兩艦ノ規定ニ依ル
 八.各艦射擊終了後砲壇射擊規則第四十三條ニ依リ成
 績表(砲壇成績表ヲ指シ表)ヲ調製シ之ヲ本射擊中隊
 故障ノ有無并射擊ノ就キ講究ヲ得ル事項ノ就キ
 報告ヲ附シ所屬長官ノ徑ニ聯合艦隊司令長官
 報告スルコトス

0291



0292

四月六日 水曜 晴 南之西風力一乃至二 加徳水道

正午 北緯 三十四度五三分 東經 百六度五五分

午前八、一〇 揚錨艦隊番号、順ニ從ヒ出港航行序列

昨日、如シ

全 九、〇〇 艦隊運動ヲ始ム

全 一、二九 右止ニ次ヲ列ヲ解ク

午後〇、五一 戦闘操練

全 一、〇四 第一回反航射撃ヲ開始

全 三、四七 第十回結了本日、射撃ヲ止ム

全 四、三二 各艦旗艦ノ通跡ヲ進ニ仮泊地ニ向テ

全 五、一三 投錨各艦旗艦ヲ南東ニ東ニ方位旋泊ス

艦位 熊嶋北西ニ西ノ西 水嶋北ニ西ノ西

緑島北東ノ北 水深八尋 底質泥

一葉 一

0293

午後五、二、四 戦團用意復回

海軍

第三回 及航射撃成績表 風力速力 六海里

艦名	射撃数	命中弾数	百分比
三笠	250	285	30.74
敷島	250	258	26.49

夜間八直哨兵

0294

四月七日 金曜晴 区々ノ風力一乃至四 鎮海湾

正午

北緯三十四度四分
東至百九度一分

午前八一二 揚錨艦隊番号ノ順ニ從ヒ出港ス航

行序列昨日ノ如シ

全 八五〇 戦闘操練

全 八五四 解列並航射撃ノ行動ヲ執ル

全 九〇一 敷嶋ト並航内筒砲射撃ヲ開始

全 一一三〇 各三四ヲ射撃ヲ止ム

午後 一〇二 艦隊運動ヲ始ム

全 三〇七 右歩鎮海湾豫定錨地ニ向リ

全 五〇四 投錨

艦位

加治嶋南西四度東 先露嶋頂南西七西
水深十尋半 底質泥

海 軍

夜間入道砲兵

海軍

第四回並航射撃成績表 電カ 二六連

艦名	射撃高	命中弾	射撃	百分比
三笠	2580	894	7708	52.50
敷島	2900	1085	7692	64.89

0296

四月八日 土曜 晴 区々、風力一 鎮海湾

午前八、二〇 各砲一、三、三番砲術 非番直三、四等水兵運

用術練習子他 雑業

午后一、一五 雑業、三、四等水兵掌帆科実業練習

各砲一、二、三番艦砲射撃準備及内筒

砲射撃

全 五、二〇 艦長訓示アリ其要領次ノ如シ

全 五、五〇 糧食搭載 内筒砲射撃

夜間八直哨兵

本日朋後日より施行ノ艦砲射撃地南西

界附近ノ鐘測ヲナシ危険ノ有無ヲ探ル異

状ナシ

海

0297

四月八日 総員 於前甲板

鎮海灣

(一) 第一面敷島ト對抗内艦砲射撃ニ執イテ、
 第二面ノ對抗内艦砲射撃ノ成績ヲ見ルニ並航ニ於テ
 敷島六四九本艦五二五反航ニ於テ敷島二六五本
 艦三〇七本艦成績ニヨレバ未ダ他艦ノ成績凡テ詳ナラザ
 ルニ並航ニ於テ敷島ノ六四九ニ越スルモノナカルベク知ル
 第一等ニシテ又反航ニ於テ本艦ノ三〇七ハ此度
 施行ノ射撃成績中正第一位ニ居レリ、
 内艦砲射撃ノ開始シテノ希望ハ第一回ノ時ニ述(置
)キテ此度ノ本艦ノ成績ヲ見ルニ並航射撃ニ於テ第
 一回ハ二三五其次キハ三七七其次キハ四五四其次キハ五二
 五トナリ此次キハ優ニ六〇〇トセシト以上ヲ得ルニ難カラ
 ズ順序ヨキ進歩ノ績ヲ示サリ又伊ズ六〇〇トセシト

毎 日

以上ヲ得ザルベカラザルナリ此度ノ成績ハ砲術長各砲術長
以下各砲員ガ研究ヲ専子タル正シキ方法ニヨリテ
訓練ニ訓練ヲ積ミタル結果ニシテ御互ヒ乗員一
同ト共ニ甚ガ愉快トスル所ナリ、

柳ニ内膳砲射撃タルヤ巨大ナル燐砲ニ細小ニ小
銃身ヲ装シテ發射スルモノナレバ莫論照準ニ於ケル微細
ナル誤差ニ標的ニ達スレバ何十米突ノ差ヲ生ズルモノ
ナレバ砲台長ハ極メテ精密ニ苗頭照尺ノ改正ヲ
施シ射手ハ又之レヲ細心注意シテ裝備シ沈着
ニ照準スルニアラザレバ百發百中ニ決シテ期スベカラザ
ルナリ

(二) 常装菓射撃ノ就イテ

今回施行セシレバ内膳砲射撃ノ各砲ノ成績

0299

何と良好海域に達シタルに我が聯合艦隊司令長官は此度特
 種、常装薬射撃ヲ施行セラル、トナレリ此ノ如キ舉
 り至リては全ク各艦が内蔵砲射撃ニ熟練シタ
 結果ニ針ヲラズテ海軍射撃ニ於テハ第一弾丸裝
 薬ノ高價ナル費用ヲ要スルノミナラス大砲ノ寿命命短
 縮セシムル、ト昨来八月十日ニ使用シタル左舷側六甲砲
 ノ全部ヲ交換シタルヲ知スル、ト得ビ即チ實
 弾射撃ヲ行フ、ト能ハスナリ故ニ此度施行セ
 ラル、實弾射撃コソ全ク晴レノ勝負ニシテ又實
 射ニ来ラントスル、ト艦隊ニ對スル、我が主戦艦
 隊ノ試験ナリ此度ノ射撃命中スル、トバルキ、ト艦
 隊、既ニ我が手中ノモノナリ射手、最モ沈着平静
 ニシテ百発百中ヲ期セザルベカラズ

0300

此度ノ射撃ニ執テ隊メ両三言末各砲ノ照準器其他
 ノ検査ヲサシメタルニ砲術長及ビ各分隊長以下熱心
 其事ニ依ヒツテ少シ認ム其内砲術長ノ報告ニヨリハ
 ニ三ノ砲其照準器ニ偏差ヲ生ジタルモノアリト砲一
 タルモノハ砲全般ニ執テ無限ノ責任ヲ負ヒ田ノ預
 武器ハ常ニ完全ニ保存セザルベカラズ是迄屢々
 訓示シタル處ナリ然ルニ尚此ノ如キ誤差ヲ生ズル
 尚一層格納取扱上^{海軍}周知ナルヲ望ム
 前述秋ガ内陸砲射撃ノ成績ガ漸々進歩ノ好徵
 ヲ獲ケツアルニ鑑ミ此度ノ實彈射撃ニ於テ殊ニ優秀
 ナル成績ヲ得ル^ルトハ信ジテ疑^ハル所ナリ是非トモ
 隊中ノ某一位ヲ占ムザルベカラズ先年色瀬ニ於テ
 セラレタル実彈射撃ノ際本艦ガ上位ヲ占ム^ルトハ

0301

尚乗員ノ多クガ記憶スル所ナシ而シ現今ノ射手ニ其時
ノ多ト餘リ多ク変リアラス此度ハ内艦砲ヲ充分ニ訓練
シ経々上トシ色瀬ヲ得ル成績ヨリ遠ク勝レんモア
ベシト信ズ

(三) 敵状ニ就テ

敵状ニ就テ今日少シク愉快ニ感ズル所ノモノヲ得タリ
該電報ハ急ク信トス能ハスト由ニ露國某ニ艦隊ガ
「マツカ」海峡ニ来レリト報ナリ某ニ艦隊ハ皆ノ知ル
如ク
鞆岡艦七隻アリテ中ニハ「ヤワリ」シグイウエリキ
ナルモノアレモ他ハ何レモ新鋭ナルモノアリテ凡テ十二
吋砲四門ヲ
有セリ故ニ十二吋砲ノ數ニ於テハ我レハ彼レニ劣レリト
思ハ
六吋ハ我レハ彼レニ優レリ然レモ我レハ決シテ彼レヲ
恐レザルモノ
アリ何ゾヤ曰ク我レハ射撃ノ自信カヲ以テ優ニ彼レニ

打勝ゾバヤ胸弄ヤリ余ハ心ヲ我が一艦ヲ以テ彼レノ三艦
 ニウラント欲ス故ニ砲員ハ色レノ一門ヲ以テ彼レノ十門ヲ破ルノ
 精神ヲカルベカラス砲員タルヲハ内務隊ニテ射撃ト云フ
 志レイヤリ其精神百発百中ヲ期セヨト云フハ此處ノ
 事ナリ敵艦隊ガマラツカ水道思見レタリトノ報ヲ得
 ル其急就未否極ナテ覺束イキヌレハ急行スレバ二週
 ヲテ達シ得ラント打弄シテ其準備ヲ要ス免ニ南
 近日彼レト相遇ス好機切迫シタルハ最モ吾人ノ愉
 快トスル所ナリ
 最後ニ更ニ一言ヲ加フ明後日ノ射撃ニハ名砲員最モ
 沈着ニ発射シ優等ナル成績ヲ得ンヤ切望ス

四月九日日曜 晴 区々風力一 鎮海湾

正午 湾内吹嶋附近

午前八一〇 揚锚内筒砲射撃ノ為メ湾内吹嶋附近

ニ向フ

全 九一一 ヨリ日令第其号吹嶋ニ向ケテ、艦砲射撃

并射線路上ヲ航進シ艦ノ廻轉工合ヲ試ム

全 一〇、五五 六海里ノ速カニテ艦載水雷艇ノ曳的對

シ及航内筒砲射撃ヲ施行ス

全 一一、二〇 右中止

午後 一一、一五 右再始

全 四、一〇 全ク射撃ヲ止メ锚地ニ向フ

全 五、三八 投锚

海 軍

0304

艦位

加治嶋頂東西南

陰地嶋東南東西南

老露嶋南西東

水深十尋半底質沈

皮間八直哨兵

少機関士候神生篠原宗重塩谷信成

丸山末男長尾秀二齊藤昇北古賀

英雄兼艦

0305

四月十日 月曜 晴 区々ノ風カヨリ一 鎮海灣

正午 先伊島附近漂泊

全 七、〇三 揚鑛艦砲射撃地ニ向フ

全 七、二〇 鞆厨ノ取置ニ付ク

全 七、五〇 四十七歳砲射撃開始(標的吹島)

全 八、四八 十二号全右

全 一〇、〇〇 六号全右

全 一一、〇一 十二号全右

全 一一、二〇 四十七歳密林殊、射撃ヲ為ス

全 一一、二六 右終了本日ノ射撃ヲ了ル

全 一一、三〇 先伊島附近ニ漂泊敷島ノ射撃ヲ見ル

午後 三、二八 豫定鑛地ニ向フ

全 四、〇七 夜間八直哨兵

毎 日

0306

艦位

老露島頂南西 五
加老島頂南東 五

水深十尋半 威實泥

艦砲射撃成績表

砲種	發射發數	命彈發數	命實比	全砲平均
十二吋砲	四	二	五〇.〇	
六吋砲	二八	一七	六〇.七	
十二吋砲	二〇〇	一〇五	五二.五	五三.九
四吋砲	一二〇	五八	四八.三	

0307

四月十一日 火曜 区々ノ風カヨリ 鎮海灣

午前 七、四、五 戦闘上障害トナルベキヲダビツト等格納

会 九、二、五 雑業

午後 一、一、五 彈片防禦ノ為メ古水雷防禦網ヲスキツドビム

ニ展張方及雑業、信号兵信号機古

夜間八直哨兵

海軍

0308

四月十一日 水曜 午前曇午後晴 区々風力ヨリ 鎮海湾

午前 九、五〇 雑業、信号兵信号稽古

午后 一、一五 雑業

全 三、〇〇 内筒砲射撃

全 五、三〇 各分隊教育

夜間八直哨兵

海

軍

0309

四月十日 木曜

晴

区々ノ風力ヨリ一

鎮海灣

午前

五、四、五

石炭搭載用意

午後

八、一、五

登陸礼式ヲ行ヒ第二艦隊以下諸艦兵ヲ送ル

午後

三、〇、七

石炭船萬田山丸ヨリ石炭搭載開始

午後

五、一、五

右結了

夜間八直哨兵

上等校尉兵曹田中伸之進退艦

石炭搭載成績表

成績順	分隊	開始時刻	終了時刻	所要時間	石炭搭載量	全上一時間	全上全平均
一	第一分隊	全右	四、三三	一、二六	全右	九七、九	
二	第二分隊	全右	四、三五	一、二八	全右	九五、三	二六三噸
三	第三分隊	全右	四、四二	一、三五	全右	八八、六	
四	第四分隊	全右	五、一五	二、〇八	全右	六五、七	
全	全右	全右	四、三三	一、二六	全右	九七、九	

0310